

社會教育と子供

東京市社會局教育課長 大 迫 元 繁

學校教育家家庭教育社會教育と云ふと、學校である教育と家庭である教育と學校でも家庭でもない處即ち社會といふ所とする教育とかう三種に分かれる様であるがさうすると社會といふものはごく小さい局部の又は特種の感があるが私の申すのはさういふ狹意の社會ではない。人々が生活してゐる處、その中には學校もあり家庭もあり其他あらゆるものゝ含まれてゐる人の生活即社會、であつて國家即社會、全般的なものである。社會といふものをかういふ立場に置けば社會教育といふものゝ中には學校教育も家庭教育もその他のものも總て含まれてしまふ。或は學校教育、家庭教育、二者に屬さぬ中間にある團體たとへば少年團、青年團、處女會等いふものを指して社會教育と呼ぶ事もあらふがそれは狹意なのであつて、こゝに私の申すのはもつと廣意義のものである。扱いつも感ずる事であるが我國の社會にはも少し、人間といふ、言ひかへれば人格の、觀念が明か

にせられなければならぬ。それは社會教育の一つの缺陷とも見られる。學校に行けば其處には教師と云ふ階級があり生徒といふ階級があつて各々がすべき事を守つて行き家庭には子と親があつて子が親に従ふべくせられてあるが教師も貴い人間なら生徒も同じく貴い人間であり親も一個の人格なら子も一個の人格であるといふ心持がない。我國の社會には階級の型は判然してゐるが人間の影はうすい人間の影即人格そのものが重んじられてゐない。大將を望み社長をのぞむ高位高官を得んとて努力はするが自ら一個の人格としての完成の爲には留意する事が少ない。

といふのは我が國では目的と手段とをあまり判然して考へすぎることではあるまいか。世間の人は云ふ「子供は成人になるまでの子供」即ち成人といふ目的の手段であつて子供時代そのものは目的の爲に犠牲にされてゐる。それなら若しかりに子供が成人に

はならず死んだらそれまでの生といふものは無意味になる。私は現在主義といふ事を云ふ。それは子供は子供の爲の子供であつて成人になる爲の子供ではない子供それ自身が價值あるものとするのである。

二十歳の子を失た人がこんな事を云た「皆さんがこれまでに育てたものをこれから云ふ處で實に惜しい事をしたといはれる、しかしこれからといはれるとそれならこれまで二十年の月日は何の爲であつたらう」と。しかし私は思ふ現在は手段でもなく犠牲でもない現在そのものが貴いのである、人々が青年に向てよく云ふ言葉に『將來の爲だから今はがまんしろ』といふがそれでは現在は價值がない事になる。もし彼等の將來がないとすれば彼等の生はつまらないものである。丁稚に番頭になる爲に店主になる爲にはなく丁稚そのものが意義ある事である。

日本の社會は子供を一人前に見てゐないが余が米國に居た時丁度排日論の盛な當時で或家を訪問した時たま／＼それが話頭にのぼつた成人の會話や説をぢつと傍で聞いてゐた十歳ばかりの子供は最後に自分の論をのべた父母はじめ周圍の成人は誰れもその

子供の語るのを成人の語るのと同様に謹聽してゐた。「子供のくせに口を出す」と難じたり「子供のくせになまいきな」と云ふ輕蔑の態度は周圍の成人の間に少しもみられなかつた。弱者として保護することそれは身上勿論大切であるが更に子供の子供として的人格を認めると云ふ事が我が國の社會に廣く理解され實行せられる事を切望する。

今一つには子供の教育を考へると同時に親自ら、教師自ら、社會の人自らが教育すべきである。子供をどこの學校に入れようかばかり考へて親自ら人間としての完成の爲に自己を教育することを忘れてゐる家庭ではよく例のある事で母親が子供から感心されないような事を自ら仕て居ながら子供が何か邪魔をしたりよくない事をした時に「お父さんに叱られるよ」と云ふ、自分を問題の外に置いて子供だけを教育しようとする。それでは教育に力がない従て効果が無い。階級をのぼるのに一段目はどうでもいゝ、ごにかくお前は十段目へお出といふのでは曲藝である不確實な歩みである、しかしこれまでの我が國の教育なり生活なりは立身出世が目標であつたから輪廓のみを重要視して内容をおろそかにする傾があつ

た。しかし輪廓の大小は問はず人間としての義務、人間としての正しい道を踏めばそれが意義ある生活であり人格としての充實である以上今はしかたがない將來偉くなれと云ふより今すべき事を盡せばそれが正しき生活即意義ある人生で更に進むべき道への過ぎなくてはならぬ大切な基礎である事を説くべきである。今の世では總ての人が職業を持たなければならぬのにともすれば多くの人が自分の職業を輕んじて他人の職業を羨む傾があるそれは輪廓の大を望むからではあるまいか。人生の目標を生活の内容充實におくならば一労働者も高官の人も或は一商人も千差萬別の各職業者が皆自己の義務遂行と正しき生活に満足して暮すべき筈である。眞の生活は輪廓の大にあらずして内容の充實であること云ふ事を家庭でも學校でも其他、一般の社會教育によつて知らしめたい。

親に孝に君に忠にと説かれた道德は縦であつた。縦の道德勿論大切であるが横の道德即ち隣人の愛の道德、彼も天下の一人であれば我も同じく天下の一人、それは個人にあらず國家人にあらず共に住み合はせた隣りあひの人間同志がもつべき大切なもので

ある。社會生活といふ言葉があれば社會人といふ事も云へよう。眞の社會人それは生活の内容充實に満足をして隣人の愛に生きる人間である。

子供は社會人である故に道の左側を歩くことを教へらるべきでそれは人に禮をする様に云ひきかすよりも大切である。着てゐる着物はいてゐる足袋帯から帽子すべてが材料から自分の身につくまでには多くの人の勞力を經てゐるといふ事、社會の恩とも云ふべき是等のたくさんの事からは廣き意味の社會教育として幼ない人達にも知らしむべき事と思ふ。道のあるく時に紙屑を捨てゝはならぬとか電車や汽車に乗る時の注意などは社會に生活する人として誰もが知らなければ又守らなければならぬ事であつて先にも申した少年團や青年團が、斯うした社會生活の教育の爲に盡力するのはまことによい事と思ふ。

一人々々の人格を重んじ生活の内容充實を目標として隣人の愛に生きる社會人がその生活の道程に顧慮すべき事は健康である。「健康第一」の標語は自らの爲に同時に隣り人の爲に社會生活を營む誰もが重んずべきである。公衆衛生は公衆道德と共に幼き社會人の胸にもかみくだいて含めらるべき事からである。

最後に云ふ。社會人の教育は社會自らがなすべきである。(在文責記者)